

第3回審議会のまとめ

【町の目標像】

- 『みんなが楽しく、温かく・豊かな暮らしができる』ことが巨理の目標となりそう。

○ 交流人口の増加や定住化の促進

- 人をたくさん呼べるまちづくりをしていきたい。
- 巨理には宿泊施設がなく、交流人口が少ない。イベントなど、まちづくり協議会と協働でできるといい。
- 夜間人口を増やさないと発展はない。
- 土地代が安いこともあり、巨理を選んで移住した。若い人に住んでもらうためにも、土地代の安さやICの近くに託児所をつくる等、巨理に住むメリットを行政や地域などでPR強化すべき。

○ 巨理としての価値(巨理らしさ)の創造

- 町民が誇りに思い、周りの人がうらやましがらうような価値観が作られるといい。「巨理らしさ」に含まれるストーリーや文化などを発信していけば、それらが、地域経済とむすびついて定住、Iターンなどの定住促進に繋がるのではない。
- 30年間巨理を歩いてきたが、地域の人々は意外と巨理を知らないと感じている。
- 町外の人に巨理を紹介する時は、温暖で住みやすいことから「東北の湘南」と言っている。
- 「パークタウン構想」というと、分譲住宅のようなイメージを受けてしまう。開発等で前に進むばかりの構想の印象があるので、何か他の名称があればいい。
- 食と文化をアピールしている地域が多くある。農業や漁業と観光が結びつくといい。
- 「伊達な」というキャッチフレーズがあり、「伊達」には歴史的な繋がりやかっこいいイメージがある。巨理に来るとかっこいいものがあるというイメージを持ってもらい、歩いて回れる町になればいい。
- 震災前や明治・大正の良さ、歴史を残していけるようなエリアを設け、子ども達に伝えていき、観光資源にしていければいいのではないか。

○ 住民の活動やサービス提供の拠点(コミュニティの核)の整備

- 今後、総合病院を建てる計画はあるか。
- 遊里館図書館の利用しやすさ(休日利用など)を高める必要があり、遊里館の使われていないスペースの活用も検討すべきである。
- 市民の拠点となるようなもの、他と同じようなものではなく、もっと自由でみんなが楽しめる場所をつくって欲しい。
- 老人クラブの会員は皆元気。高齢化社会の中では、娯楽や趣味などをできる施設があれば活性化が図れるのではないか。

○ 協働のまちづくりの推進

- 行政と地域やNPO等との協力体制を構築し、役割分担を明確にした上で、地域でできることは地域でやるのが良い。
- 巨理ネットワークという団体を立ち上げ、コミュニケーションの活性化を進めている。
- まちづくり協議会は発足して3年が経ち、住民と行政の役割分担について現在検討中なので、計画にまちづくり協議会の位置づけをしっかりと入れ込む必要がある。先行してモデルとなる地区が出てくると良い。
- まちづくり協議会が住民の意見を吸い上げることで、住民ができること、行政ができることを分け、一人ひとりがまちづくりに参加できると良い。各地区の区長さんが住民にもっとわかりやすく説明することも重要である。
- まちづくり提案事業については、協議会が主体となって意見をすい上げ実践していく方向で町と調整中。
- 資源の活用について、法人や組合、各種補助金等を積極的に活用していくべき。

【概念図で表すと・・・】

